

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年3月24日(2016.3.24)

【公開番号】特開2014-151024(P2014-151024A)

【公開日】平成26年8月25日(2014.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2014-045

【出願番号】特願2013-23878(P2013-23878)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/103 (2006.01)

A 6 1 B 3/11 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/10 M

A 6 1 B 3/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年2月5日(2016.2.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼眼底に測定指標を投影する投影光学系と、前記測定指標による眼底からの反射光束を受光素子により受光する受光光学系と、を備える測定光学系と、

前記受光素子からの受光信号に基づいて、被検眼の第1瞳孔領域に関する第1の眼屈折力特性と、前記第1瞳孔領域より外側に形成される第2瞳孔領域に関する第2の眼屈折力特性とを求める演算手段を備え、被検眼の眼屈折力を測定する眼屈折力測定装置であって、

前記演算手段は、前記第1の眼屈折力特性と第2の眼屈折力特性との加重平均を求ることにより第3の眼屈折力特性を求めることを特徴とする眼屈折力測定装置。

【請求項2】

前記演算手段は、眼底に対する光の入射角度が大きいほど視細胞の感度が下がるというスタイルクロフォード現象を考慮して、前記第1の眼屈折力特性と第2の眼屈折力特性との加重平均を求ることにより第3の眼屈折力特性を求ることを特徴とする請求項1に記載の眼屈折力測定装置。

【請求項3】

前記演算手段は、前記加重平均を求める際の重み付けの係数を変更可能であると共に、前記加重平均を求める際の重み付けの係数を、測定光軸からの距離が離れた光束ほど小さくすることを特徴とする請求項1または2に記載の眼屈折力測定装置。

【請求項4】

被検眼の眼屈折力を測定する際の被検眼の瞳孔径を測定する瞳孔径測定手段を有し、

前記演算手段は、前記加重平均を求める際の重み付けの係数を変更可能であると共に、前記加重平均を求める際の重み付けの係数を、前記瞳孔径測定手段での測定結果に基づいて変更することを特徴とする請求項1または2に記載の眼屈折力測定装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0 0 0 6】**

被検眼眼底に測定指標を投影する投影光学系と、前記測定指標による眼底からの反射光束を受光素子により受光する受光光学系と、を備える測定光学系と、前記受光素子からの受光信号に基づいて、被検眼の第1瞳孔領域に関する第1の眼屈折力特性と、前記第1瞳孔領域より外側に形成される第2瞳孔領域に関する第2の眼屈折力特性とを求める演算手段を備え、被検眼の眼屈折力を測定する眼屈折力測定装置であって、前記演算手段は、前記第1の眼屈折力特性と第2の眼屈折力特性との加重平均を求めることにより第3の眼屈折力特性を求めることを特徴とする。